

旧城下町鹿児島「博学連携」プロジェクト2024

小林善仁(法文学部)・南直子(法文学部)・永迫俊郎(教育学部)

1. プロジェクトの目的

明治初期の廃藩後に旧城下町となった鹿児島市街地(鹿児島城跡を含む)の近代における地理的・歴史的状況とその変容過程を解明し、得られた調査・研究成果を蓄積して、大学教育と地域での生涯学習(博物館施設)などに活用することを目的とする。これは、本センターの「『鹿児島の近現代』教育研究拠点整備事業」が目指す、本学や地域の所蔵する歴史的・文化的・地理的資源の調査・研究と地域への成果の還元、地域課題を踏まえたまちづくりと地域の社会教育・郷土教育にも資する地域振興の取り組みの一つでもある。

2. プロジェクトの内容

本プロジェクトは地域の博物館施設と大学の共同実施であり、昨年度に引き続き鹿児島市立ふるさと考古歴史館(以下、ふるさと考古歴史館)と協力して行った(図1)。対象地域の鹿児島市街地では「城跡」「寺跡」「繁華街」「郊外」の4テーマを設定し、本年度は近世鹿児島城跡の一部を構成した城山を対象に、事業を実施した。実施内容は①従来の文献調査とフィールドワークによる情報の収集・分析、②古地図などの地理資料の収集、③鹿児島市街地の近代的事象の相対化として他地域(福岡・熊本)の事例との比較・検討である。

◎近世の城絵図、並びに明治40(1907)年撮影の『鹿児島県写真帖』など近世・近代の城山に関する資料の調査・分析から鹿児島城の山城や城山公園の形成過程、定番の風景(図2)の成立に関する新知見を得た。

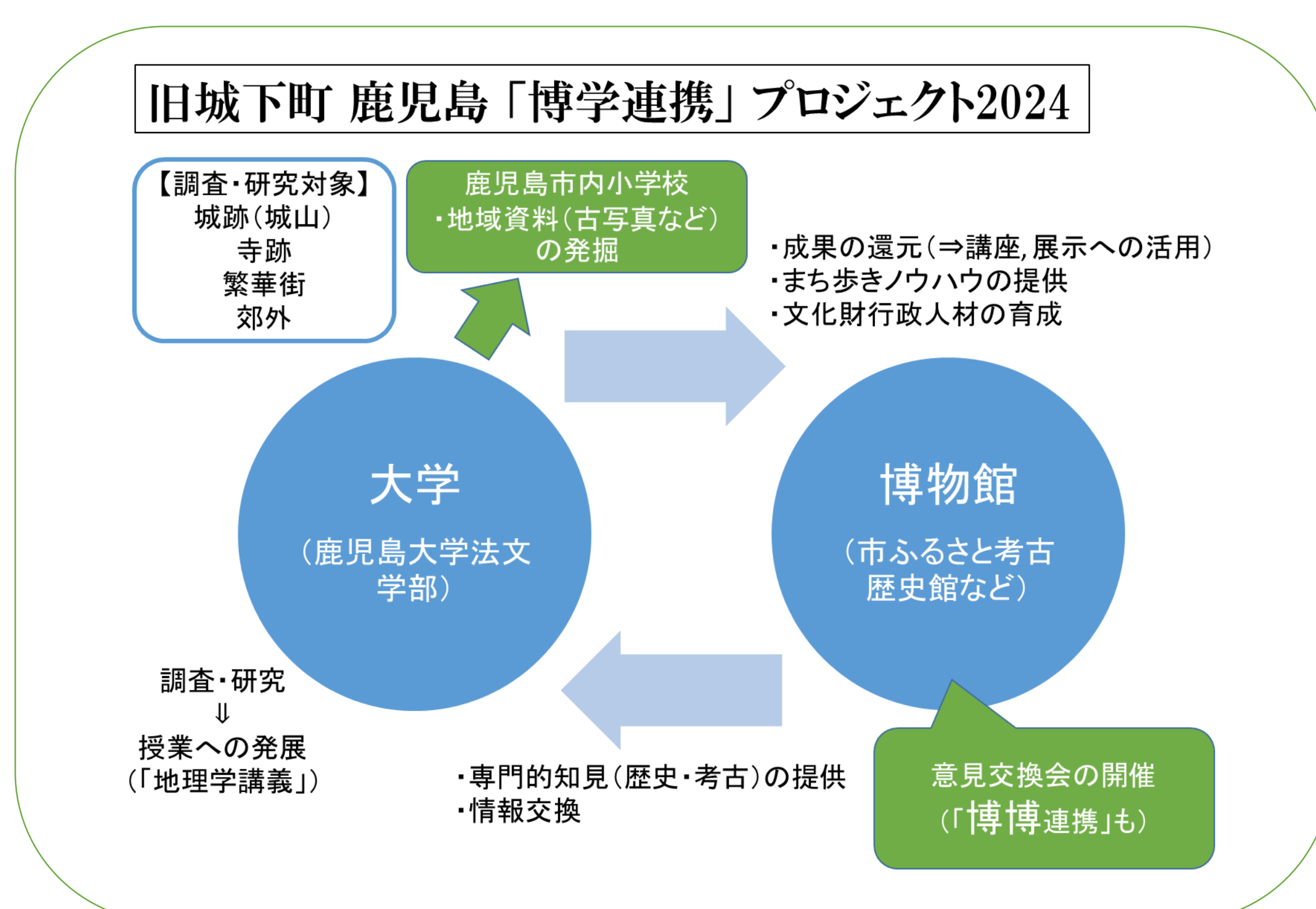


図1. 事業の枠組み



図2. 城山から見た現在の鹿児島市街地と桜島 ※ 筆者撮影

3. プロジェクトの成果

①城山公園の形成過程の解明・・・陸軍省、農商務省からの譲渡と公園の整備・拡大 ※公園開設(県営)は明治18(1885)年⇒明治41(1908)年に城山山頂部(東半部)を鹿児島市が取得。以後、園路整備と植樹(桜・梅・楓・躑躅など)を実施。

昭和6(1931)年の在郷軍人会による自動車道開鑿は大半が旧道を活用(図3)。坂道の傾斜緩和と拡幅が目的。

②城山展望台の整備と定番の風景の成立・・・明治40(1907)年の皇太子行啓時に鹿児島市が展望台を整備⇒『鹿児島県写真帖』(図4)と同じ構図の風景写真が案内記や市街地図に掲載される。→ 普及・定着

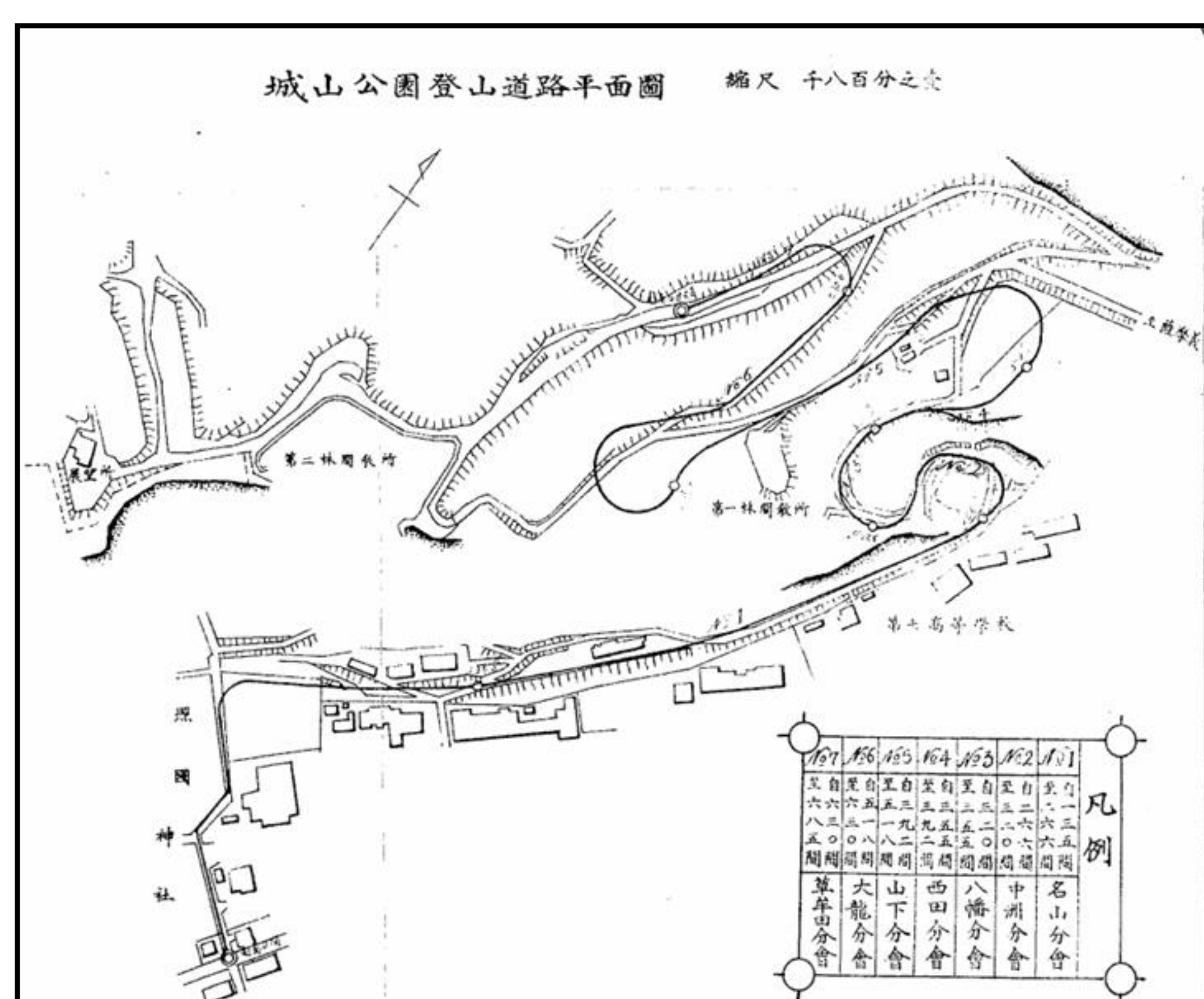


図3. 昭和6年の自動車道路建設と旧登山道
※『城山登山道路開鑿記』(1933), 鹿児島県立図書館所蔵。



図4. 城山から見た明治40年の鹿児島市街地と桜島
※『鹿児島県写真帖』(1907), 鹿児島大学法文学部所蔵。

【謝辞】
本プロジェクトを実施するにあたり、学芸員の中村友昭氏をはじめ鹿児島市立ふるさと考古歴史館の皆様、並びに鹿児島県立図書館など調査先の方々のお世話になりました。なお、本プロジェクトは鹿児島大学法文学部附属「鹿児島の近現代」教育研究センターの「地域マネジメント教育研究推進事業」の助成を受けて実施したものです。ここに記して厚く御礼申し上げます。